Q 慢性前立腺炎や間質性膀胱炎を併発しているBPH患者で，症状が改善しにくい場合の対応のポイントを教えてください。

A

上田 朋宏
医療法人朋友会 泌尿器科 上田クリニック 院長

前立腺肥大症（BPH）は，夜間頻尿や尿意切迫感，尿排出障害など下部尿路症状（LUTS）が主たる症状だと思われます。このような症状を有する患者に対し，検尿，残尿測定，1回排尿量の評価を行うことはいうまでもありません。治療は，主にα_1ブロッカーや抗アンドロゲン療法による薬物療法，また経尿道的前立腺切除術（TURP）を行う場合もあります。

それでも症状が改善しにくい場合に，慢性前立腺炎や間質性膀胱炎を合併している可能性があります。

まずすぐに取り組むべきことは，十分な麻酔をかけて前立腺部尿道，膀胱の観察目的で狭帯域光観察（narrow band imaging；NBI）併用膀胱尿道ファイバー検査を行うことです[1]。そのうえで慢性前立腺炎，間質性膀胱炎（ハンナー病変）を評価します。BPHによる排尿障害改善のため，尿を出やすくすることで蓄尿障害が出現し，逆に間質性膀胱炎を悪化させる場合も少なくありません（図）。

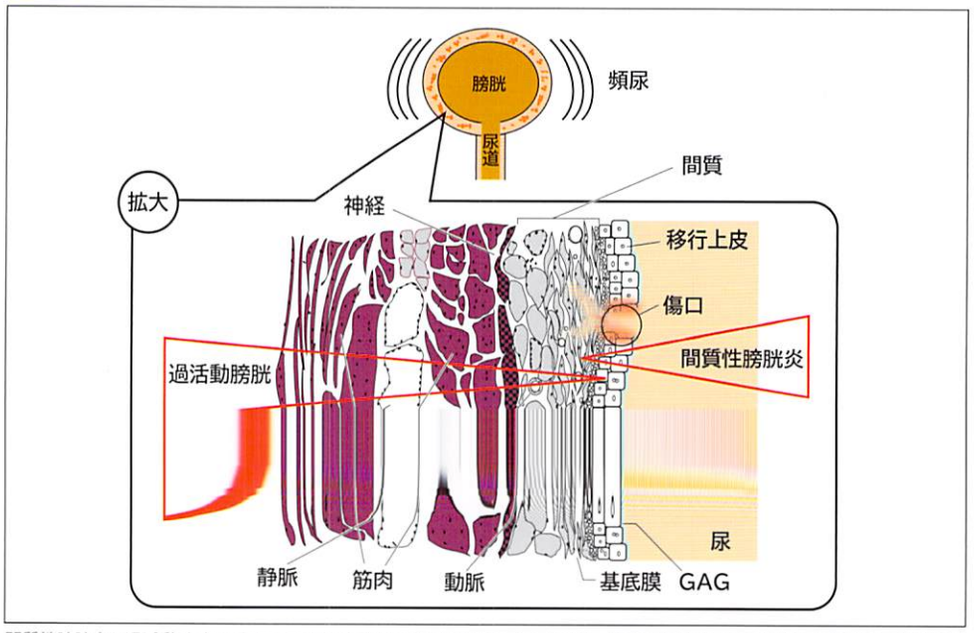
そこで，以下の10項目について検討してからBPHの治療を見直すことをお勧めします。

① まず酸性尿の改善（発酵食品，酢の物，かんきつ類，炭酸水を控える）。
② 高カリウム食品（生野菜か果物摂取）を減らす。
③ 免疫力向上をうたうサプリメントを一時控える。
④ 刺激物の摂取を控える。
⑤ 水分をよくとり尿の濃縮を防ぐ。
⑥ 膀胱水圧拡張術＋前立腺マッサージを間欠的に行う。
⑦ ハンナー病変がないかNBIで精査し治療する。
⑧ アルカリ化療法剤（クエン酸カリウム・クエン酸ナトリウム水和物配合製剤）[2]，アレルギー性疾患治療剤（スプラタストトシル酸塩）などの薬剤を併用する（本邦適応外）。
⑨ TURPは，時に間質性膀胱炎の症状を顕著化させる。必ず膀胱水圧拡張術を先行して行い，1回排尿量が200mL以上になってから行うべきである。
⑩ 慢性前立腺炎や間質性膀胱炎は生活習慣病の側面もある。食生活，性生活などまで患者と向き合わないと症状が改善しにくいことが多いことも留意すべきである。

References

1) Ueda T, Nakagawa M, Okamura M, et al. Int J Urol. 2008 ; 15 (12) : 1039-1043.
2) Ueda T, Yoshida T, Tanoue H, et al. Int J Urol. 2014 ; 21 (5) : 512-517.

図 間質性膀胱炎と過活動膀胱



間質性膀胱炎と過活動膀胱は，頻尿・尿意切迫感という症状を共有する。しかし，間質性膀胱炎では膀胱の内側の移行上皮から尿が浸み込み，過活動膀胱では膀胱の外側（神経）から異常が及び，それが膀胱の間質や上皮の神経末端で出会う様相を呈している。
GAG：グリコサミノグリカン

（日本間質性膀胱炎研究会ガイドライン作成委員会 編．間質性膀胱炎診療ガイドライン．東京，ブラックウェルパブリッシング，2007．より引用・改変）